

# 「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和4年5月13日（金） NO5 文責 木下 文秋

## 校門での一礼に思う

平成10年から7年間この学校に教諭として勤務していたのですが、その当時と校舎も変わりそして、学校の雰囲気も随分と変わっていることを感じます。生徒数は昔の方が多く、職員数は今の方が若干多くなっています。そして、驚くことに2度目の三股中を経験している先生が私を含めここに何と5人もいます。話は変わり、今日は「校門での一礼」について考えてみたいと思います。「校門での一礼」については、三股町内の学校で統一して取り組んでいるそうです。確かに、朝の登校の様子を見ていると、多くの生徒が立ち止まって一礼する姿があります。こういう風習に「誰に向かってしているの」とか「何のためにしているの」と話題になることがあります。私はこの一礼には大きな意味があると思っています。それは、全校生徒・全職員およそ900名を超える人間が軸足を揃え、同じことができているということです。「気持ちを整えて同じことを全員ができる」ことで連帯感を生みだします。いわゆるワンチームになる意識につながると感じています。日本人の文化に「黙想」という言葉があります。辞書をひもとくと「考えを整えたり、自分の意識を集中させて深層心理に触れ、新しい気づきを得ること」とあります。要するに「自分を見つめ直す時間」だと言えます。黙想も一礼も日本人としての文化でありプライド（誇り）だと思います。他国に比べて日本が素晴らしいと賞賛されることに「礼儀正しい」「列を作って整然と並ぶ」「治安がいい」などたくさんあげられます。これらは幼い頃に受けた教育が大きく影響しています。校門で一礼する習慣は、何の意味も持たないように思えますが、やがて皆さんが社会人になった時、必ずプラスになるはずです。最後に、生徒の皆さんに是非お願いしたいことがあります。それは、「校門での一礼」を皆さんの力で三股中の「誇りと伝統」にして欲しいということです。ここで大事なことは、3年生の存在です。このことを推し進めていくには3年生の力なくして実現はしません。学校の顔である3年生が率先して校門での一礼に取り組む姿を後輩たちは見て育っていくはずです。これが「伝統」ということです。皆さんが思いを込めてこの学校の誇りとして「校門での一礼」を続けてくれれば、やがてそれは三股中の素晴らしい「誇りと伝統」になると思います。皆さんの様子を見ていてそれができるとしています。